**本人患者さんへの情報公開文書**

「腹腔鏡下大腸がん手術時の、吻合部腸管血流に関する臨床研究」

についてのご説明

1．研究目的・方法

　大腸がんに対する腹腔鏡手術は痛みが少なく、在院期間が少ないという利点があり、近年増えてきています。今までは、手術で腸をつなぐときに、つなぐ腸の血流を確認する方法として、腸管の色調、腸管の動き、視診・触診による動脈の拍動などで確認してきました。しかし、大腸がん手術ではもっと安全で正確な方法が必要とされています。本研究では、保険適応になっている ( の略、緑色の色素のこと)を、腸をつなぐ前に血管内に注射して、腹腔鏡手術の時に蛍光カメラを用いて腸の血流が保たれているかを検証します。という試薬は以前から注射として検査に使用されており、人体にとって安全性が確立されています。は蛍光カメラを通すと光って見えるという特徴があります。このことを利用し、腹腔鏡手術の時につなぐ腸の血流が確保されていることを示せれば、手術の質を高めることに貢献できると考えています。

本研究の結果により、大腸がん手術がより安全にかつ成績が向上することが期待されます。

2．研究の対象

・初発の大腸がん患者で、大腸切除の既往がない症例で登録時に20歳以上で原発性大腸（盲腸、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸、直腸）がんと診断され、2014年1月1日から2018年12月31日に当院で手術を行った患者さん。

3．研究期間：病院長承認日～2019年12月31日

・症例数：500例

4. 研究内容と患者負担

　各患者さんの電子カルテ上のデータを収集し調査いたします。得られたデー タは、下記のデータセンターに集約され、解析されます。全てのデータに対し、 匿名化処理を行ないますので、被験者の方の個人情報は完全に保護されます。研究の被験者となることを希望なさらない場合、2019年11月30日までにお申し出いただければ、ただちに研究対象から除外いたします。患者さんの日常診療以外の余分な負担や 経費は生じません。この研究にご質問のある方は、下記の連絡先までお申し出ください。

問い合わせ先

札幌市中央区南 1 条西 16 丁目

札幌医科大学附属病院 消化器・総合、乳腺・内分泌外科

TEL: 011-611-2111(内 32810)

研究責任者 竹政伊知朗

研究分担者 沖田憲司